

ボランティア部門
(国内)
Volunteer



しみず やすゆき

清水 康之 Yasuyuki Shimizu

NPO法人自殺対策支援センターライフリンク 代表

Representative, LIFE LINK, Suicide Prevention Network Japan

推薦者

尾辻 秀久 参議院議員

柳澤 光美 参議院議員

薬師寺 みちよ 参議院議員

1972年東京都出身。高校を中退し留学のため渡米。世界を放浪した後、ニューヨーク州立大学に入学し国際基督教大学へ編入。卒業後、日本放送協会(以下、NHK)に入学し「クローズアップ現代」などを担当。2004年NHKを退局。同年に「ライフリンク」を設立。以来、精力的に自殺対策に取り組み「自殺対策基本法」成立の原動力にもなった。2009年内閣府本府参与(自殺対策担当)に就任し、「自殺対策強化月間(3月)」の導入などを実現した後、同職を辞任。命のつなぎ役として「自殺のない生き心地のよい社会」の実現に向けて日々奔走している。

「自殺社会」から「生き心地のよい社会」へ

いのちをつなぎ、支える

決められたルールに従って歩むことを強いる日本社会に生きづらさを感じていた清水康之氏は、高校生の時に日本を出ることを決意し単身でアメリカの高校に留学した。卒業後、現地の大学を経て国際基督教大学へ編入。帰国後も感じた日本での「生きづらさ」の正体を自ら解明したいと、同大学卒業後、1997年に

日本放送協会(以下、NHK)に入局。翌年、バブル崩壊も影響し自殺者数が急増。清水氏は自死遺児の体験談を冊子で読み、強烈なショックに襲われたことがきっかけで自死遺児の取材を開始。自身の感じていた生きづらさと照らし合わせて、「日本を生き心地のよい社会へ創り変えていきたい」と思い、それ以降、自殺

対策に取り組むこととなる。清水氏が本格的に自殺対策に取り組んだのは、NHKの報道ディレクターとして自死遺児を1年がかりで取材した番組が2001年に放送された時だった。それまで顔や名前を伏せるのが当然とされていた中、初めて素顔、本名を出して自死遺児の痛みや悲しみを伝えることで、タブーとされていた自殺の実態を公にし、社会問題化させた。放送後、多くの反響があり、国会でも取り上げられた。その後、2002年に厚生労働省が「自殺防止対策有意識者懇談会」を発足させるも報告書をまとめただけで解散。「推進役」のいない政府主導の自殺対策の状況に限界を感じ、取材者という線を越えて現場に立つため、2004年3月にNHKを退局。自身が自殺対策の「つなぎ役」となり活動しよう

と、同年10月にNPO法人「ライフリンク」を設立した。活動を行う中、自殺対策に取り組む議員と出会い、清水氏は2006年に「自殺対策の法制化を求める3万人署名を企画」展開。2カ月弱で10万筆以上の署名を集め、議員有志と連携し「自殺対策基本法」を設立させた。



■「自殺対策の法制化を求める3万人署名」活動を行う清水氏

「つなぎ役」となり活動しよう」と、同年10月にNPO法人「ライフリンク」を設立した。活動を行う中、自殺対策に取り組む議員と出会い、清水氏は2006年に「自殺対策の法制化を求める3万人署名を企画」展開。2カ月弱で10万筆以上の署名を集め、議員有志と連携し「自殺対策基本法」を設立させた。

その後も内閣府本府参与として、国の自殺対策の骨格作りや参与辞任後も「改訂・自殺総合対策大綱」の素案作りなど、社会全体で自殺対策を推進するための仕組み作りにより携わり続けている。また、各々で活動していた自殺対策活動を行う民間団体をネットワーク化。民間団体とさまざまな分野の専門家や行政、さらには政治など、これまで分散しがちであった自殺対策活動を繋ぎ体制作りを行うことで、新しい解決力を生み出した。



■「自殺対策を推進する議員の会」でプレゼンテーションをする清水氏